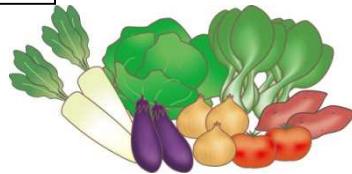


水稲作業受託組織設立と転作田を活用した複合経営の実践



いたくら しずお
板倉 静雄
【千葉県大網白里町】



事業を契機に複合経営を開始

国営両総地区(H5～24年度)は、千葉県の東北部に位置し、6市7町1村にまたがる千葉県有数の一大農業地帯です。

事業により水田の水管理労力が削減されたこと、区画整理で大型機械による作業が可能となったことから、板倉氏は、率先して水稲作業の労働時間の縮減に取り組み、その労力を露地野菜や施設園芸に活用しました。

水稲作業受託組織の設立と法人化

地域の農家が高齢化し、労働力が減少する中、平成4年に氏を中心とした地域の農家6名により、水稲の収穫調製作業を請け負う作業受託組織を設立しました。当初の請負面積は30ha程度でしたが、委託される農地が増加してきたこと等から平成18年に「農事組合法人 細草R・C(ライスセンター)」として法人化しました。

この地域では、安心して水稲作業が委託できるようになったことから、水稲作業に係る労力を軽量野菜等の栽培などに振り向ける農家が増え、生産意欲の拡大に寄与しています。

また、この取組がモデルとなり、地域に新たな作業受託組織が誕生しています。



朝市の創設や直売所への積極的な参加

氏は、町内に生産者と消費者のふれあいを深める場として「朝市」、「白里遊楽市」を創設しました。これは、新鮮な旬の野菜だけでなく、農産・水産加工品、商工業品も扱うなど、地域全体のPRの場となっています。

また、JA山武郡市の直売所「緑の風」にもいち早く参加した他、ほ場を消費者との交流の場に提供するなど、交流の促進や販路拡大等地域農業の牽引役として尽力されています。



↑ 氏のほ場で行った「地産地消交流会」



↑ JA山武郡市の直売所「緑の風」

指導農業士として積極的な後進の指導

氏は、平成2年から指導農業士として活動しており、現在は、県指導農業士会副会長として、農業大学の学生や新規参入を希望する研修生を受け入れているほか、県全体の指導農業士の情報交換など会の運営にも尽力されています。

この他、JICAからの紹介で海外からの研修生を受け入れ、国際交流にも貢献されています。

これらの活動の他、両総用水事業推進協議会メンバーとして、国営事業や県営事業の推進にも尽力されました。

現在、板倉氏の経営は、板倉御夫妻、娘さん夫妻に、お孫さんが加わり、ますますパワーアップしています。